

こすもスマイル 69号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和6年9月

～副病院長のあいさつ～



皆様には日ごろより地域連携にご協力いただき、ありがとうございます。
この原稿を書いている8月現在は連日の猛暑が続いていますが、その中で奮闘するオリンピックや甲子園高校野球の選手たちに感動させられます。体調に注意しながら、日頃の努力の成果を発揮できるよう、応援したいです。

最近、震度5弱の日向灘沖地震や、被害集中豪雨、台風など自然災害に日本各地でも見舞われています。被災された方々が一日でも早く日常を取り戻されることを願います。

さらに、コロナ感染もまた流行していて、入院や外来受診されてる患者さんが増えています。そして毎日のように一日数名の熱中症の患者さんが救急外来を受診されています。

マスク・手洗いうがいなどの感染対策や、熱中症予防のための水分摂取や適度なエアコンの使用を心がけていただくようお願いします。

また、小林市立病院は西諸県郡の地域医療支援病院、感染症指定医療機関、災害拠点病院であり、地域医療を支えるとともに、新型コロナウイルス感染や、災害時の地域の役割の重さを痛感しています。

そのために、当院においても通常の患者さんの診療とともに、職員の感染予防策を行っています。患者さんやご家族に様々なご不便をおかけしていると思いますが、ご協力をお願いいたします。

私は手術患者さんの術前、術中、術後の麻酔管理にたずさわる役割ですが、安全な手術がこれまでどおり円滑になされ、患者さんが良好な手術後経過どおり過ごされるよう、病院内スタッフと協力しあっています。

小林市立病院 副病院長 麻酔科科長兼任 窪田 悦二

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



整形外科紹介

初秋を迎えたと思われるのですが、まだまだ暑い日が続いています。熱中症や食中毒には十分気を付けて楽しく健康的な日々をお過ごしください。最近の当科の出来事についてご紹介いたします。内容としては昨年のもとの重複する部分が多数ありますが、ご了承ください。

①大腿骨近位部骨折に対する早期手術

高齢者に多く人体最大である大腿骨の骨折で、侵襲も大きく、移動能力の大きな低下をきたす骨折です。受傷前の日常生活に戻るため、早期の手術が望ましい骨折です。最近のガイドラインでは48時間以内の手術が推奨されています。48時間以上になると出血や下肢静脈血栓症、誤嚥性肺炎などの合併症が多くなり、果てには生命予後まで不良となるからです。麻酔科・救急科の先生方や外来・手術室・病棟看護師、レントゲン技師などの協力を得ながら受傷から48時間以内に手術が行えるよう励んでいます。その結果、48時間以内に手術を行えた症例は2021年が33%、2022年が46%と増加傾向です。72時間以内まで含めると68%まで増加しています。これにより早期離床が可能となりADL回復に寄与していると思われま

②二次性骨折の予防

大腿骨近位部骨折で入院された患者さんに対して手術を行った後、早期に骨粗鬆症の治療を開始しています。以前から、骨折後の骨粗鬆症加療率が低く再骨折をきたすことが問題となっていました。当院では1人の患者さんに対して入院早期よりリハビリスタッフ、医療相談員、栄養士、薬剤師、医事など多職種が介入し、骨粗鬆症加療継続・移動能力改善・生活環境の整備 etc を通じて退院後の再骨折リスクを防ぐよう努力しています。

③戸田 雅（とだ まさし）先生 赴任

昨年の家族とラグビーとお酒とバイクをこよなく愛するナイスガイ岩佐 一真先生にかわり（宮崎市内の病院で頑張っています）、旅とウィスキーとマラソンをこよなく愛するクールガイ戸田 雅先生が4月から赴任されました。上肢を専門にされています。気軽にご相談いただくと幸いです。まずは、2人でコツコツと頑張りたいと思います。

整形外科医長 上通 一師

5 階病棟紹介

5階病棟は、病床数54床の消化器外科・腫瘍外科の急性期病棟です。外科医5名、看護師25名、入院調整看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学士、リハビリスタッフ、看護補助者、クラークとともにチーム医療に取り組んでいます。

入院患者さんは、主に胃・大腸・胆のう・すい臓などの消化器疾患であり、手術や検査を安心して受けていただけるよう丁寧な説明を心掛けています。また、薬剤師やがん化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師と共同し、化学療法の副作用に対する生活指導、症状および疼痛緩和、ターミナルケア、精神的苦痛の緩和などを含め、患者さん1人1人に寄り添った看護を実践しています。緊急入院や重症な患者さんも多く入院されており毎日忙しい病棟ですが、患者さんが安心して入院生活が送れるように、いつも明るい雰囲気づくりをスタッフ全員で心がけています。

これからも「この病棟で治療を受けることができて良かった。」と患者さん及びご家族に心から思っただけのような看護ができるよう日々努力して参ります。

5階病棟看護師長 猪上 広美





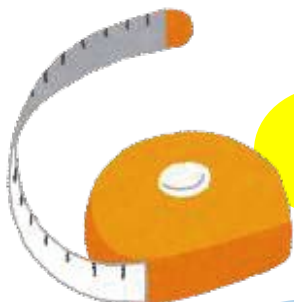
食と栄養のたより



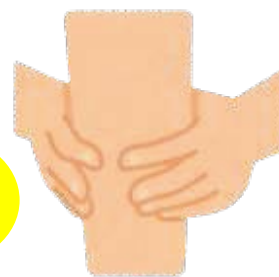
臨床栄養室

低栄養のリスク、あなたはどうか？

世界共通の低栄養の基準として GLIM 評価が用いられるようになりました。さまざまな低栄養の診断の項目のひとつとして、筋力量の減少について**ふくらはぎの周囲**を測定し、低栄養のリスクを診断する指標が以下の通りとなっています。



メジャーを使って
ふくらはぎの一番太い箇所
測定してみましょう！！



男性
30 cm以下



女性
29 cm以下

上の基準値以下の方は筋力減少の可能性があり要注意です



あなたの数値はどうでしたか？
あくまでも低栄養のリスクのひとつで
これのみでは低栄養の診断とはなりません
筋力の減少を予防するためには栄養と運動が大切です

～低栄養予防のためのポイント～

○たんぱく質のおかずは毎食摂取しましょう

血液や筋肉のもととなるたんぱく質は筋力維持には欠かせません。
肉や魚、卵、大豆製品の中から毎食どれかを選択して
偏りなく摂取したいですね。



○日常生活の中で無理のない適度な運動を

ウォーキングやラジオ体操など軽い運動を始めてみましょう。

○食事についての相談や困りごとがあれば・・・

入院中、通院中に食事について相談があった際は
管理栄養士へ気軽にお声かけください。



事務部紹介



今回は、経営企画係をご紹介します。

経営企画係は事務部内に組織されており経営分析等を行いながら「経営強化プラン」の進捗状況の管理、施設・設備管理、施設基準の管理、電子カルテ等のシステム管理及び関連する各種届出や補助金の申請業務等を行っています。今回は、その取り組みの一部をご紹介します。

「支出」における近年の課題は、物価高騰による診療材料や食材料費及び電気利用料や燃料の高騰、更には人件費の引き上げによる委託業務の高騰など、これまで提供してきた医療の経費がここ数年大幅に上がっており頭を抱えているところです。

当院は、平成21年9月に新病院での診療を開始し、早15年が経過しました。現在は、建物の劣化度を確認しながら当院で策定した建物の個別計画に基づき修繕等を行っており、質の高い医療を提供するために必要な経費を抑えながら経営改善に向けた取り組みを行っています。

次に「収入」における取り組みです。本年度当初は、診療報酬改定が告示され、医事係や診療情報管理室と連携しながら、改定情報の収集、新設された施設基準を満たすかの確認などを行い新基準への対応の検討を行い、届出を行いました。近年の施設基準においては、近隣の医療機関との連携の要件が課された施設基準もあり、そのひとつに「感染対策向上加算」がありますが、当院は令和6年6月1日から「感染対策向上加算1」の届出を行ったところです。近隣の医療機関さんで感染対策向上加算における連携を希望される場合には、当院までご連絡ください。

経営企画係長 武田 慎一

西諸華道連盟の皆様、 素敵なお花をありがとうございます

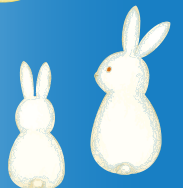


スタッフのひとこと

今年の夏は熱中症を警戒して運動不足になりがちでしたが、同僚に勧められて、『こばやし健幸ポイント』というウォーキングを推奨する企画に参加しています。

歩数に応じてポイントがたまるので、歩くことが少しずつ楽しくなってきました。このまま継続して健康づくりに励みます。

地域医療連携室事務員 柿木 良子



連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp